

第3号

定価1年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

職場がバラバラにされないか!?

査定昇給制度を学習し、

問題点を「声」にしていく!

前号でお知らせした通り、北海道教育委員会は、月例給でも成績区分による給与決定手続き(査定昇給制度)の制度運用を二〇一五年一月から実施することを明らかにしました。

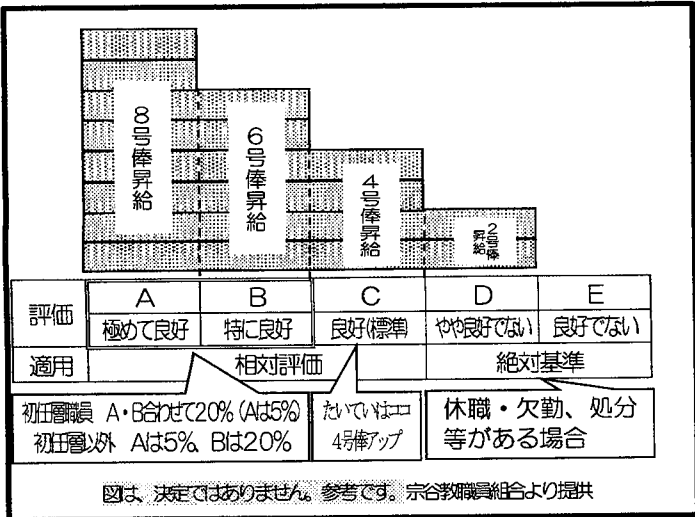
月例給で査定と昇給が連動する制度

すでに、二〇一〇年にボーナスに対して導入されている査定制度ですが、今回は、月例給に導入され、昇給に連動するものです。

私たちの給料は、号俸によって決定します。この号俸は、基本的に一月一日に四号俸ずつ昇給することになっています。この「号俸の上がり方」と「査定」を連動させ「昇給」させるというものです。つまり、査定の結果によって、人それぞれ号俸の上がり方が変わってきます。(下図参考)これは、ボーナスの算出基礎額にも、生涯賃金にも関わってきます。

あの先生がBで俺がC?!

教職員集団にさらなる競争と格差の問題が起こります。ボーナスに査定昇給が導入されたとき、こんな不満の声があちこちに漏れてきました。「なんで、あの先生がBで俺がCなんだ・・・」



今回、月例給に導入ともなると、生涯賃金でかなりの差が発生する恐れがあり、このような不満がさらに充満することが予想されます。管理職は、査定した教職員を納得させるための根拠を示すことを余儀なくされます。客観性を重視するあまり何らかの「数値」で説明する可能性もあり、また、数値に特化した評価になる恐れがあります。また、保護者アンケートや児

大阪ではこんなことが...

童・生徒のアンケートをその根拠に説明責任を果たす可能性もあります。

現に、大阪は、そのアンケートを使って査定昇給をしています。それを取り扱ったNHKの番組で、大阪の高校教諭が生々しく語っていました。「テストで簡単な問題を作れば、生徒ウケがよくなり、アンケートの教員評価は上がる。でも、それでは生徒に力がつかない。ここが大切だ」ところを出したいけど、問題が難しくなり、平均点が下がり、アンケートの評価も下がる・・・」と。悩んだあげくその先生は、難しい方のテストを作ることにしたとナレーターが語っていました。

チーム体制がバラバラに

また、文科省が発行した「生徒指導提要」には、「複雑化・多様化する児童生徒の問題行動等を解決するためには(中略)学校として組織的な対応することが重要となります。(その)有効な方法の一つとして、チームによる支援があります」このようにチームによるとりくみが重要な学校に、査定昇給が持ち込まれ、差ができると、ど



査定怪獣
バラバラ

宗谷教組より提供

うなるのかはあきらかです。個人の実績や成果を最優先に考える教職員も出るかもしれない。さらに、子どもよりも評価者である管理職の方に目が向けられることも否定できません。

このように、子どもとの関係、保護者との関係がギクシャクし、職場の関係がバラバラにされる恐れがあります。まさに様々なものを破壊する「怪獣」のようです。

上から言われることは従うしかない・・・といっていられません。現場の人間として、子どもたちと直接向き合う私たちが、その制度を学習し、問題を掘り起こし、その「声」を伝えていかなければなりません。勤務条件に関わる問題だけでなく、「教育」に関わる大きな問題です。

まずは、職場で、この査定昇給制度の問題を学習し、具体的な問題点を挙げ、職場がバラバラにされないよう知恵を絞る話し合いの場が重要です。そして、檜山教職員組合は、その「声」を道教委に伝え、たたかっていきます。

差診療所内で二七名の参加者の中、行われしました。歓迎集会では、代表して檜山教組の石橋委員長が歓迎の挨拶を述べました。核廃絶の今日的意義と解釈変更による集団的自衛権にふれ、「戦争をする国づくり」へまっしぐらに進んでいる情勢を報告し、「今こそ、教え子を再び戦場に送らない」ことを訴えました。

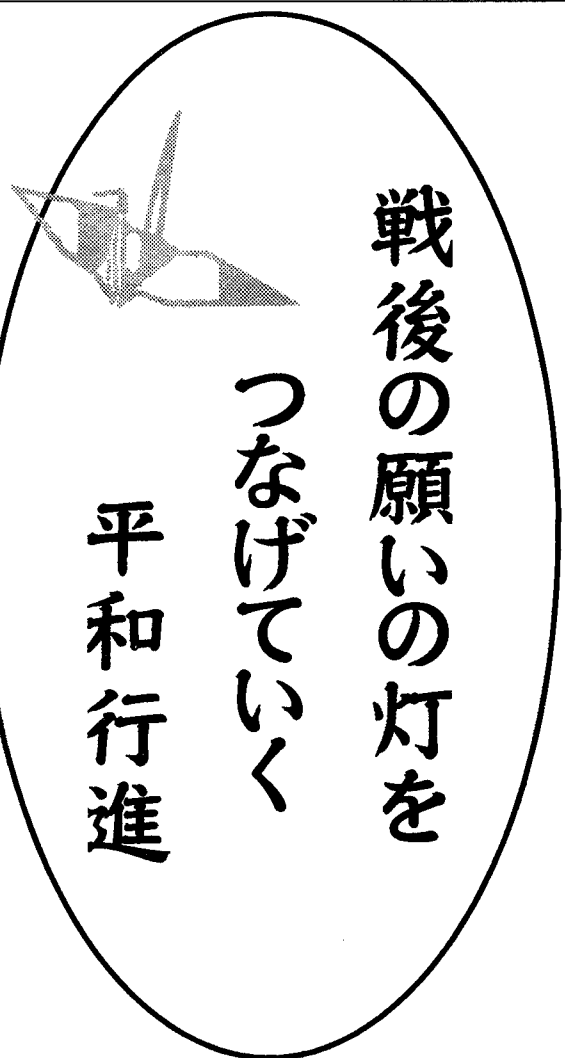
通し行進者の山内氏は、「行進の際に立ち寄った北海道四七の自治体は、この平和行進をすで行事として位置づけていて、快く受け入れてくれる。



行進者 山内金久氏

二〇一四年国民平和行進は、通し平和行進者の山内金久氏を迎え、五月二十七日にはせたな町で、翌五月二十八日には江差町でそれぞれ行われました。

江差集会・行進は、道南勤医協江



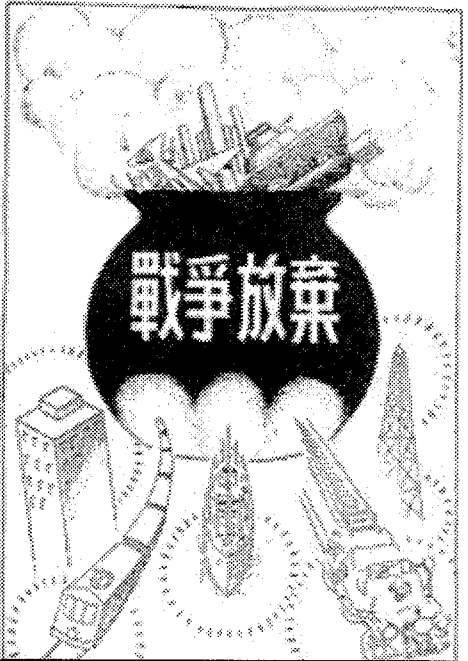
戦後の願いの灯を つなげていく 平和行進

それだけでなく、今の情勢を一緒になつて憂いている。賛同のペナントは、町長をはじめ、副町長、教育長など一六本もいただいた。これは、各地で平和を望む草の根の活動があるからです」と、現地を励まし、平和と核廃絶への強い願いを訴えました。

平和行進は全国津々浦々を通り、この夏の原水爆禁止世界大会に集結されます。核兵器廃絶の願いがつながれ、世界の世論と運動に合流していきま



檜山教職員組合は、
「憲法9条にノーベル平和賞を」
の運動に賛同し、署名しました。



「あたらしい憲法のはなし」文部省より

戦争の放棄

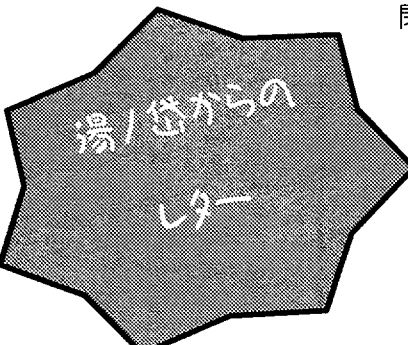
第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

閉校記念の大運動会

上ノ国町立湯ノ岱小学校 浜田洋子

六月初初の日曜日、今年度で閉校を迎える湯ノ岱小学校の最後の運動会が開催されました。何をしても「最後の・・・」という枕詞が付くのがなんと寂しいのですが、いちばん人が集まる行事なので、準備も気合いを入れて？ 進めました。



子ども達が考えたスローガンは「湯ノ岱のみんなの協力ありがとう がんばりぬくよ最後まで！」と、気持ちがこもっています。

「山菜採り」「リケジョ」「レジェンド」それらは種目名に使われている言葉です。なんだかわくわくしますよね。

全校児童四名、全員が団長か副団長のため、応援合戦は観客が拍子木を持って参加、団体競技は中高生が紅白に分かれて入ったり、保護者・親戚一緒の親子種目で競ったり、ラストランの紅白リレーも三走からは地域年代別リレーとなります。地域総出はもちろんですが、最後だからと遠くから来てくださった方や、吉堀トンネル工事の方達まで、最後の記念写真には八十名を超す人が写りました。学校前での大ジンギスカンパーティーから、会場をセンターに移したご苦労様まで大盛況でした。

その後寂しがっている暇も無く、地域夏祭りの準備に移っています。きっとまた、多くの方々が参加してくれると思います。

